

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立兔和野高原野外教育センター	現指定管理期間	平成31年～3年(3年間)
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設内等の日常清掃の実施する ・日常清掃の他に退所時の点検・清掃を徹底して実施する ・部屋、トイレ、食堂、浴室等の除菌清掃を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設内等の日常清掃を実施した ・特に退所時の点検・清掃を徹底して実施した。また部屋、トイレ、食堂、浴室等の除菌清掃を実施した 	○	○
	設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な施設、設備の維持管理に努める ・水質、消防設備、危険物など法定検査を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築士による建築物点検を年1回実施した ・設備業者による設備点検清掃を年1回実施した 	○	○
	植栽管理	エリアごとに担当を設け、計画的に草刈・芝刈り・除草・枯死木の伐倒等を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターより地元場内作業員を雇用し、草刈作業を実施した ・樹木医によるお手植え木診断と処置を実施した ・職員による枯死木伐採、森林整備を行った 	○	○
	警備	<p><宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置する</p> <p><宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム(株)による夜間の機械警備を実施する。日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置する</p>	<p><宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置し、電話対応や緊急時に備えた</p> <p><宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム(株)による夜間の機械警備を実施した</p> <p>日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置した</p>	○	○
	小規模修繕	<p>①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行する</p> <p>②高額な修繕は所管課と協議する</p>	<p>①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行を行った</p> <p>②新型コロナによる減収補填分は、主幹課と協議した。</p> <p>R2年度の計画修繕工事の対象外になった老朽化箇所の改修を如何に進めるかが課題である。</p>	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	法定点検の実施	安全かつ安心して活動できる 施設の提供	・職員による月1回程度の施設内安全点検を実施した ・フィールドアスレチック点検を年2回専門業者により実施した	○	○
運営 業務	開館日・開館時間等	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし(12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00</p> <p>< 木の殿堂 > 月曜日定休日(12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30(冬季 16:00)</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし(12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00</p> <p>< 木の殿堂 > 月曜日定休日(12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大による休館はなかったが人数制限・入場制限を行い開館した。時間についても時短営業等の指示に従い開館した。</p>	○	○
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・設置管理条例に基づき利用者受け入れを行う ・DM 告知、HP での広報などで広報を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約受付の混乱を避けるため、利用団体により時期をずらして受付を行った ・DM、HP での告知などで広報を実施した 	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 各種主催事業を実施する</p> <p>< 木の殿堂 > 創意工夫し特別展、手作り教室等を実施</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 「オートキャンプフェスタ」等計18事業を実施</p> <p>< 木の殿堂 > 特別企画展12事業、手作り教室15事業、ふれあいの森活動を7事業を実施</p>	△	△
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	団体利用者を対象にアンケートを実施する	団体利用者を対象にアンケートを実施した。 職員の対応については約98%の利用者から「満足」との回答を得た。	○	○
利用 状況	利用者数	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 25,000人</p> <p>< 木の殿堂 > 入館者35,000人</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 12,560人</p> <p>< 木の殿堂 > 入館者 7,582人</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大による活動自粛・出控えにより、R2よりは増加したが大幅な利用者、入館者減となった。</p>	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	施設稼働率	①施設稼働率の向上を図る ②入館者増の取り組みを行う	①新規利用者の獲得を図るため広報に努めた ・但馬地域の自然学校の誘致 ②新規来館者・リピーター確保のため、新規特別展示を実施した	○	○
収支状況	収支計画と実績	人件費の高騰を緩和するため、人員を削減し管理運営費の改善を図る	①R2年度 会計年度任用職員1名の削減、利用者減のため雇用抑制 賃金の削減 ▲571千円 ②R3年度 利用者減のため雇用抑制、超過勤務の抑制・手当削減▲2,005千円	○	○
	経費節減に向けた取組	経費削減に向けた取り組みを行う	緊急事態宣言、まん延防止措置等によるキャンセルの影響で、燃料費・光熱水費を削減した 電気料、燃料費、光熱水費等 ▲4,300千円	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの要望の把握と対応	・利用者からのアンケートや聞き取りにより、要望に応える小規模修繕や快適な施設提供に努めた ・新型コロナウイルス感染症対策に努めた	○	○
	危機管理体制の確保	①災害時等緊急マニュアルを作成する ②夜間緊急時の召集体制作り ③新型コロナウイルス感染対策	①災害時等緊急マニュアルを作成し、訓練を年2回実施した ②夜間緊急時の召集体制とマニュアルを作成した ③感染者が出た場合の対応について協議した	○	○
	県・関係機関との連携	①兵庫県、関係機関との連絡・連携 ②他施設との連携	①兵庫県、関係機関との連絡網・連携体制を作成した ②兵庫県青少年本部他施設とのイベント相互協力や、パンフレットの相互配置などを行なった	○	○
	業務の再委託の状況	①「山の観光」の振興 ②香美町関係機関との連携を深める	①当センターが「瀬川平倶楽部」の事務局となり、近隣他施設との情報交換や各種イベントを企画した ②香美町の関係機関との連携事業を実施した。ウォーキング・ハイキング・野外活動の事業を実施。新たに香美町をつなげる「山・川・海」の施設連携を開始した	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・コロナ禍での受け入れ

引き続き感染対策を図りながら、利用団体の人数制限を解除し受け入れを行っていく。主催事業も通常の定員に戻して実施する。コロナ禍で利用の増えた一般利用のオートキャンプも、学校団体のない土日を中心に受け入れを行う。

・自然学校の受け入れ拡充

R4年度より旧豊岡市の3団体7校が新規利用となる。R5年度より更に新規利用が増え、5月～7月中旬と9月～11月中旬に、ほぼフルで自然学校の予約を受けている。安全、安心な利用はもちろん、各学校の狙いに沿った自然学校になるようサポート体制の充実を図る。

・地域連携の拡充

これまでの取り組みに加え、山・川・海の施設連携など更に地域の団体や施設との連携を図る取り組みを推進する。

2 課題

・老朽化施設の修繕

R2年度の計画修繕工事の対象外となった屋外施設、キャンプ場等の老朽化が目立つ。緊急性・危険性のある箇所については小規模修繕を実施し、大規模なものは主管課と協議をしながら修繕を進めていきたい。

・お手植えの木の管理

全国植樹祭から28年を経過し、害虫や菌の侵入により樹勢が弱っている木もある。樹木医による診断や処置を行っているが、根本的な解決には至っていない。育樹祭を念頭に入れながら財源を含めどう維持管理していくか課題である。

3 その他

・公的施設の指定管理者原則公募化が打ちだされている中、R5以降の管理者の変更の有無に関わらず、引き続き安定した受け入れができるよう準備を進めていかなければいけない。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立兎和野高原野外教育センター	現指定管理期間	平成31年～3年（3年間）
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

運營業務としては予約受付の混乱を避けるために、利用団体により時期をずらして受付を行うなど、スムーズな運営を行っている。利用者アンケートでは、職員の対応について9割以上が「満足」と評価しており、経験豊富な職員が多く、利用者の要望に適切に応えていると評価できる。

利用状況としては、新規来館者・リピーター確保のために新規特別展示を実施し、開催事業についても昨年度より1.5倍以上に増加するなど、利用者増加に向けた取組に努めている。

施設維持管理業務としては、敷地が広い施設であるが、草刈りや除草について実施箇所を工夫するなどし、職員で対応することにより、経費削減に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用状況としては、新型コロナウイルスの影響により人数制限や入場制限を行ったため、当初計画の半分以下の利用者数となっている。来年度以降は予約が増加している自然学校や、一般利用のオートキャンプなど、兎和野の広大な土地を利用した事業を、利用者が安全安心に実施できるように、管理運営を心がけて利用者数増加につなげて頂きたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
		B		

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立文化体育館	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	定期清掃、清掃箇所の優先順位等運用変更を実施し施設の美化及び利用しやすい環境、利用者満足向上に努める。	定期清掃は休館日を利用して計画通り実施、日常清掃は障害者自立支援事業との連帯協力による清掃活動を実施。 日常、定期清掃において仕様範囲では賄えない事象については早急、臨機応変に対応するため作業シフトの見直しを常に実施し施設運用に沿った清掃を実施した。	○	○
	設備保守管理	日々の施設巡回、法廷点検、保守点検、臨時点検を確実にし、施設の安全を保つことにより、利用者の皆さまに安心して利用していただける環境を維持する。	日々の運営スタッフの監視体制により不具合の発見、休館日を利用して業者による修理やメンテナンスを実施し機器の延命措置をはかり維持管理を実施。 点検による不備、不具合箇所のリストを作成し安全面を最優先に対応したが、いくつかの案件で修繕費、工事期間の問題もあり対応の滞りがあった。	△	△
	植栽管理	植栽の定期的剪定、施設内外の美化に努め、景観含めて利用者、地域住人が快適に過ごせる環境づくりを実施する。	共同体スタッフ、障害者雇用チームによる、雑草除去、剪定を定期的実施し、施設の美観に努めた。	○	○
	警備	館の警備は機械警備にて実施して、火災関連については実施火災報知器関連の熟知をして緊急体制、連絡体制を確立する。	セコム警備保障による館全体(駐車場含む)の機械警備を実施。関連機器の取り扱いについては定期的に確認を実施。	○	○
	小規模修繕	設備従業員の日々の巡回点検、定期点検での不具合発見により早期補修計画を立案して、安全な施設、備品管理を目指す。	設備スタッフを中心とした全スタッフによる館内巡回にて不具合箇所を発見、タイムリーに報告を行い応急修繕を実施。修理が必要なものについてはメーカーなどへ迅速に修理依頼を実施。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
	法定点検の実施	計画的に実施する。	計画的に実施した。	○	○
運 営 業 務	開館日・開館時間等	開館時間については、これまで通りとします。営業時間 9:00～22:00 *日曜は 21:00 まで 休館日 第一月曜日 (祝日の場合は翌日)、12/29～1/3(変更の場合あり)	コロナウイルス対策として 4/25～5/11 の期間を全館休館、他に 6 回の時短営業を実施。改修工事により本館を 7 月～翌 3 月、スポーツ館を 12 月度に休館。短縮営業時に利用者の安全を優先して健康文化講座を延期または休講。短縮営業に合わせて夜間時間帯の利用を休止した。	○	○
	公共性・公平性の確保	「老若男女、ハンデキャップ、職業、国籍などに関わらず、誰もがいきいきとスポーツを楽しむことができる施設」を目指す。	施設予約状況を案内するデジタルサイネージを設置。多言語翻訳機器の設置。シニアトレーニングルームの設置。毎月第一営業日の電話予約方式を継続。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	貸館業務を優先し、講座の運営は一般利用者の妨げとならないようにします。共同体の個性を生かした自主事業を積極的の展開する。	募集講座数は 105 講座で開講。講座受講総数は 29,349 人、内訳としてスポーツ講座は 27,238 人、文化講座は 2,031 人、自主事業は 80 人参加した。期の途中参加を可能として参加しやすい方式に変更した。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	講座修了後には、お客様アンケートを実施し、ニーズを的確に捉え、事業の見直しに反映する。	サービス・施設に関するアンケート調査を実施。11～12 月の期間にアンケートの回答を 184 名分回収。それらの意見を元に今後の運営、改善に努める。	○	○
利 用 状 況	利用者数	全体的な利用者数の拡大と並行して、個人利用、占有利用、各種講座それぞれで目標管理を行う。	利用者合計は 208,166 人(前年比 68%) 個人利用は 80,378 人(102%)、占有利用は 98,439 人(51%)、講座・自主事業は 29,349 人(91%) コロナ対策、改修工事による休館の影響があり、前年実績を割り込む結果となった。	○	○
	施設稼働率	一般利用と講座運営のバランスを十分に配慮し、施設全体の稼働率向上を目指す。	本館稼働率は 33.8%(前年比 98.2%)、スポーツ館稼働率は 78.7%(91.0%) コロナウイルスの影響により、前年実績を割り込んだ。	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	収支予算案に基づいた、施設管理運営を行う。	収入実績 300,787,539 円 支出実績 300,787,539 円	△	△
	経費節減に向けた取組	水光熱費の削減に取り組む。	2021年4月よりシャワーに節水システム(24 セット)を導入し、月平均 23%程度の削減効果を確認。2022年5月より、電力を「エネット」から「ゼロワットパワー」へ変更することで、400千円/年の削減予定。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートの実施と「お客様の声 BOX」を設置します。利用者からの苦情やクレームは、貴重な情報源と捉え、迅速かつ誠意ある対応を行う。	利用者アンケートの実施。利用者からの意見を反映して子供向け教室では検温の方式を変更。プールの滑り止めマットを設置。	○	○
	危機管理体制の確保	平常時、緊急時それぞれにマニュアルを制定し実行します。状況に応じ、アシックスの本部社員・近隣施設からの応援を派遣し、人員を確保する。	コロナウイルス感染症対策を徹底。定期的に各社本部からの巡回を実施。	○	○
	県・関係機関との連携	指定管理受託者として、各種関係機関と密に連絡をとり、常に情報を共有する。	開催行事の情報を近隣関係先へ案内、西代駅地下鉄構内へチラシの設置依頼。利用者の声、修繕状況等を所管課へ随時報告する事で対応を効率化。	○	○
	業務の再委託の状況	アシックスグループは、兵庫県内に複数の事業拠点を有しています。このメリットを活かし、緊急時だけではなく、平常時においても支援を行う。	定期的に各社本部からの巡回を実施。定期的に施設訪問を行うことで本部との連携を図り状況に応じて、応援スタッフ派遣等を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・新型コロナウイルスの感染拡大を防止しながら、県民の皆様が運動・スポーツ活動を継続できるようコロナ後の社会に向けた施設運営を行います。一般利用については、利用いただくすべての方に満足していただける施設運営を目指します。結果として、既存利用者の利用頻度拡大、新規利用者の獲得に繋がります。講座の運営については、一般利用者の妨げとならないよう「空きスペース」「空き時間」を有効活用します。バランスに十分配慮し、施設全体の稼働率向上を目指します。自主事業については、スポーツや文化活動を通じて楽しさや感動を分かち合い、共に支え合う「スポーツコミュニティ」を目指し、当共同体の個性を生かした自主事業を積極的に展開していきます。

2 課題

・利用いただくすべての方に対して、平等性、公平性の確保が公共施設の最も重要な原則であると認識しており、実際の運営に置いて常に意識を持って取り組むことが課題と認識しております。数値的な課題としては、取組目標で掲げた内容を数字で示せることが重要と考えています。

3 その他

・昨年度末に大規模修繕工事は終了したが、それ以外にも修理必須な箇所等も少なくなく、老朽化した備品の入替を含め優先順位をつけて対応することが必要と考えています。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立文化体育館	現指定管理期間	令和3年～7年（5年間）
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

経費節減にむけた取組として、シャワーに節水システムを導入し、光熱水費の削減に取り組んでいる。また来年度から電力会社を変更し、更なる経費削減を予定している、

運營業務においては、利用者アンケートから利用者ニーズを踏まえた講座の改善に努めるとともに、自主事業においても、地域団体と連携したイベントを実施している。指定管理者の本社から定期的に施設訪問を行い、本社との連携を図り、利用促進に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

指定管理者が変更となり1年目であるが、計画修繕工事や新型コロナウイルス禍の影響により、長期間の閉館を強いられた。本格的な運営には難航したかもしれないが、閉館中に施設職員への研修や運営準備に取り組んでいるため、今後の利用者数増加に期待する。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立武道館	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	日常清掃・定期清掃により常に清潔な環境が保たれるよう清掃作業に当たる。また、道場床・畳面も、水拭きや清掃を行う。	清掃業務委託により効率的に清掃を行っており、業務委託範囲外は職員が見回りを実施。アンケート調査結果においても、「行き届いた清掃ができています」といった意見を多数いただいた。	◎	◎
	設備保守管理	当館には、機械空調設備、床転換システム、大型映像装置、畳自動倉庫、可動間仕切り等多くの大型設備について、効率的な維持管理を行う。	業者との保守委託契約により、仕様書に基づき効率的に定期保守点検を行った。さらに、職員による日常点検により、適切な維持管理を行った。	○	○
	植栽管理	広範囲の敷地内の植栽・庭園の管理を行う。	仕様書に基づき、植栽の管理を適正に行った。	○	○
	警備	開館時間中は職員による巡回励行、閉館後は機械警備を行い、常時監視カメラによる警備を行う。	開館時の利用者の安全・安心の確保のため「巡回確認票」を設け定期的な職員巡回の実施、夜間や休館日には飾磨警察に巡回を依頼するなど館の安全体制が図れた。	○	○
	小規模修繕	経年劣化により、設備・備品の修繕が増えて来ているため、適切に小修繕を行う。	R3 年度は、県教委との協議により、計 10 件・13,693 千円の修繕を行うとともに、3,673 千円をその他の小規模修繕として実施した。経年劣化により、小修繕件数は増えてくる事が予想されたが、日常的に館内を巡回し問題箇所の早期発見を行うと共に、適時に小修繕を行って利用者サービスに悪影響がないようにした。	◎	◎
	法定点検の実施	法定点検ほか、職員による施設、設備、備品の安全点検を励行し、利用者の安全確保を図る。	日常点検と月1回の定期点検により、不具合箇所の早期発見と小修繕による対応が図れた。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	開館日・開館時間等	12/28～1/4 の年末年始休館を、12/29～1/3 とする。学校長期休業期間中の月曜日は開館し、また、利用者の要請を受け臨時開館・早朝開館を実施する。	12/28 を開館すると共に、学校の春季、夏季、冬季休業期間中の月曜日は開館し、また大会等開催のため、臨時開館を3日、早朝開館を48日間行った。 大会等では利用者からの希望に応じ利用者のニーズに応えることができた。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	予約管理業務においては、公平性・公共性を重視し、各武道団体と連携を図りながら利用調整を行う。	各武道団体と連携しながら、大会規模や公益性を考慮しながら利用調整を適切に行うことで、館の効率的な利用が図れた。また、トレーニングマシン利用についても、シンコースポーツとの定期的な打ち合わせにより公平に利用できるよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	各武道団体との連携のもと各種武道教室や日本の伝統文化をコンセプトにした事業を展開。トレーニングルームでは、多彩なプログラムメニューを準備。	武道教室をはじめトレーニングメニューは利用者から好評を得た。 守るべき伝統文化としての武道の普及と、時代に合わせて変化させる各種教室のプログラム内容。この両輪を共同体のシンコースポーツなどと併に上手く展開することができた。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートによる利用者満足度調査を行い、調査結果を館内で公表するとともに、利用者のニーズを吸い上げ今後の館運営に生かす。	アンケートの結果、208人の意見を集約出来た。調査の結果、館全体の印象において、不満又はやや不満の意見はわずかに留まり、ほとんどの利用者が満足しているといった高い評価を受けた。	○	○
利用状況	利用者数	R3 度当初目標利用者数 278,000 人を目指す。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、R2年度は利用者人数が大幅に減少したが、R3年度は 253,386人の利用者があり、回復傾向にあるが、当初目標には至らなかった。	△	△
	施設稼働率	道場は平日午後の稼働率が低いので、利用促進を図る。会議室等諸室の稼働率は向上しているので継続させる。	新型コロナウイルス感染症のため、団体の大会や練習が中止となり大きな影響を受けた。	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収 支 状 況	収支計画と実績	収入・支出共 R3年度計画 182,607 千円	実績 収入 182,952 千円 支出 182,952 千円 効率的な管理運営により、支 出削減を図ることができた。	◎	◎
	経費節減に向けた取組	適正な冷暖房温度設定の維持。利用後の道場照明のこまめな消灯を行う。	光熱水費や消耗品等の節減に努め、収入の落ち込み以上に支出を押さえることができた。 職員全員がコスト削減意識の取組を行う事により、よりいっそうの経費削減に取り組んだ。	◎	◎
運 営 体 制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	利用前後の打ち合わせ実施等で利用者とのコミュニケーションを図ったり、巡視を行うことにより、トラブルの未然防止と事案確認、再発防止を図ることができた。 利用者満足度アンケート調査においても、職員の接遇について、約83%の利用者から「満足した」、「ほぼ満足」との評価を得た。	○	○
	危機管理体制の確保	緊急時に備え、危機管理マニュアルを整備し、職員研修等で職員が内容把握しておくことで、迅速かつ的確な対応を図る。	日常的・定期的に職員及び委託業者が館内を巡視し、利用者の安全確保及び施設・設備に問題が無いかを常にチェックし保全に努め、職員研修の際にも危機管理について多くの時間を割いている。今後も警察・消防署等と連携を深めながら、危機管理体制の確保に努めた。	◎	◎
	県・関係機関との連携	館の円滑な運営には県や市等関係機関との連携が不可欠であるため、連携体制を構築する。	県や市との連携はもちろん、日本武道館との共催事業の実施、地元の大学とは事業協力関係などを構築。	○	○
	業務の再委託の状況	職員の接遇の向上や業務のスキルアップを図るため、研修計画に基づき研修を実施する。	参画と協働意識を生み出す共同ビジョンを明確にし、資質向上を図っていくために「学習する組織」の構築、接遇の向上、危機管理体制の強化、事故災害発生時の対応、施設・設備・備品の安全点検等をおこなった。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・新型コロナウイルス感染症の対策として、利用制限等が行われてきたが、感染防止対策を実施した上で、従来の貸館、自主事業の武道教室等の充実を図り、施設利用者・使用料収入の確保する。また、毎年開催していた「武道祭」を武道競技団体等の意見を踏まえ、多数の方が参加できる体験型のイベントに見直しして実施する。

・施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行い。また、施設運営の状況を的確に把握し、職員による日常的な部品交換や計画的な小修繕に取り組み、事故のない施設運営を継続して実施する。

2 課題

・施設・設備の老朽化対策について

開館後、20年を経過した施設・設備の改修、修繕を実施する。(令和5年度計画修繕予定)

・利便性・サービス向上について

武道の普及のため設置している「展示・情報コーナー」は、開館当時のOA機器を利用しており、收藏しているビデオについてもVHSのものであり、現代のニーズに合っていないことからリニューアルが求められている。

3 その他

・「東京オリンピック 2020」におけるフランス柔道チームの事前合宿を受け入れ、施設とサービスについて高い評価を受けた。残念ながら、「ワールドマスターズ 2021 テコンドー大会」の会場として予定されていたが、大会自体が延期となり利用中止となった。今後も国際的に開催される大会等の誘致を積極的に図りたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立武道館	現指定管理期間	令和3年～7年（5年間）
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。また、施設設備の状況を的確に把握し、職員による日常的な部品交換や計画的な小修繕に取り組み、事故のない施設運営を行うことができている。

運営体制としては大会等の施設利用者が増加する時期には、職員を多く配置しており、また利用者の要請により早朝開館を実施するなど、利用者サービスの向上に寄与している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

運營業務においては、新型コロナウイルスの影響で当該年目標 278,000 人のところ 253,386 人の利用があり、回復傾向にあるが、新型コロナウイルス禍前の水準には及んでいない。また団体の大会や練習も中止となっている。今後は、事業の広報活動をするとともに、武道の普及・振興を図りながら、関係団体と連携をはかり、利用者数の増加につながる企画立案や大規模大会等の誘致に期待する。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を常に清潔な状態に維持し、快適性を高めるため日常清掃・定期清掃・臨時清掃を計画的に実施する。	担当者を適正に配置し、管理水準に沿った業務を遂行した。また、建物全体の窓ガラス清掃及び各体育室の床におけるワックスがけを臨時で行った。 水準にはないが定期清掃として3～6階部分の窓ガラス清掃も実施した。また、コロナウイルス感染症対策として、利用者の貸出備品使用後、備品の消毒も常に行った。	◎	◎
	設備保守管理	電気・水道・消防設備、浴室管理、体育施設及び備品、研修・宿泊施設などの点検並びに修繕の実施。	点検保守を適切に行った。水質維持に不可欠な濾過装置の入れ替えなど、保健所の指導を受けないような事前措置を実施できた。体操部品については跳馬競技用追加マットを現行ルール対応物に交換し、バスケットリングの更新も行った。	◎	◎
	植栽管理	施設内の草刈り、高木の剪定、雑木の伐採。	施設職員等によって随時草刈りの実施した。	◎	◎
	警備	利用者の安全を第一に考え、施設内外の安全確保と危険予知・早期発見に努める。	施設の要所に設置した12台のカメラにより24時間監視を行うとともに、夜間・休館日は自社の警備員を配置し、施設・利用者の安全確保に努めた。年間で1件ほど、警察の協力を仰ぎ、事件を未然に防いだ。	◎	◎
	小規模修繕	機能、性能の劣化を踏まえ、修繕計画の策定及び早期に対応策の検討を行い、必要な修繕については速やかに実施する。	各種劣化による部品交換等の修繕を多く行った。耐用年数を整理し、先回り点検も並行して実施した。本社の専門スタッフが修繕計画を策定し、計画的かつ迅速な補修・修繕を行い、より安全に使用出来る状態とした。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
	法定点検の実施	計画通り実施する。	計画通り実施した。	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	休館日：月曜及び12月28日～1月4日 *4月25日～5月11日 緊急事態宣言のため臨時休館	4/1～4/24 20:00 までの時短営業 5/12～5/31 19:00 までの時短営業 6/1～6/30 20:00 までの時短営業 7/1～7/11 20:00 までの時短営業 7/12～8/1 21:00 までの時短営業 8/2～8/31 20:00 までの時短営業 9/1～9/30 20:00 までの時短営業 10/1～10/21 21:00 までの時短営業 計画に沿った開館日・開館時間の運用を行いつつ、緊急事態宣言時に時短営業を行うなど柔軟な対応ができた。また、設備機器の保守点検や定期清掃、施設修繕等は休館日に実施した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用するすべての人が困難なく快適に利用できる仕組みづくりやスタッフへの教育を徹底することで「公」を確保する	大会等の優先予約に関しては幅広く希望を聞いたうえ、重なる部分に関しては抽選（本年度は3回実施）とした。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	県民のスポーツの振興及び健康増進を図り、様々なライフステージに合わせた多種多様な事業プログラムを企画・運営する。	講座事業、サマースクール、走り方教室、ケンソウ杯、クリスマスイベント、しめ縄づくり、県総ロゲイニング、無料開放等、多種多様な事業を行った。	○	○
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者及び参加者のニーズ把握に努める	ご意見箱の常設を行うとともに、宿泊利用者からは通年のアンケートを、自主事業参加者にはその都度アンケートを取った。特にスタッフ対応に好評を得ることができた。また、いただいた意見への返事を掲示することで、コミュニケーションを図った。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	対昨年度より増加 令和2年度実績 78,876人	令和3年度実績 230,415人 新型コロナウイルスの影響での大会開催の控え、閉館時間の変更、などの影響で例年に比べ人数が落ち込んでいるが、前年度と比べると人数は上昇傾向にある。	○	○
	施設稼働率	対昨年度より増加 令和2年度実績 体育室 41.1% 格技室 45.2% 研修室 5.8% 宿泊室 1.8%	令和3年度実績 体育室 86.0% 格技室 61.5% 研修室 12.8% 宿泊室 4.8% 利用率はコロナウイルス前の数字に戻りつつあるが、来年度はさらに宿泊室、研修室の利用率の向上を図る。	○	○
収支状況	収支計画と実績	前年収入計:184,270千円 (うち利用料金収入 12,832千円) 支出計:185,377千円 収支=▲1,107千円	今年収入計:164,871千円 (うち利用料金収入 27,368千円) 支出計:171,432千円 収支=▲6,561千円	△	△
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙、老朽部分の修繕による、経費の節減対策、節水装置の導入	軽微な修繕は積極的に職員で行った。また、水道光熱に関しては業者と密に連絡を取り、より削減できる契約方法を探った。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情要望等について、速やかな改善・対応を行うとともに、速やかな対応が難しい事案については県と協議・検討を行う。	ご意見箱に届いたものは翌日対応、回答を館内に掲示した。アンケートによるご意見等に関しては館内で対応協議後、一覧にして館内掲示した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルの策定及び緊急時の連絡・対応体制を構築する。	危機管理マニュアルを策定するとともに、緊急時等における危機管理体制を構築した。また、消防署と連携し、消防訓練を行った。本社警備部と連携し、夜間等の危機管理体制も構築した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	報告・連絡・相談を密にし、連携体制を構築する。	管轄の鳴尾消防署、甲子園警察署、兵庫県教育委員会などと連絡を密にし、情報の共有に努めた。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営 体制	業務の再委託の状況	自主事業収入の増加	R2 自主事業収入 5,787 千円 R3 自主事業収入 8,916 千円 新型コロナウイルスの影響で開講が出来なくなった教室やイベントの影響で収入が例年に比べ落ち込んでいるが、前年度と比べると上昇傾向にある。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・前年度に比べ利用者数や収入は上昇しているが、コロナウイルスの影響でコロナ前ほど数字が戻りきっていない。来年度は更なる集客数増員のため、新規自主事業の開設・トレーニング設備の充実・周辺地域への利用促進の営業をかけ利用者の獲得を図る。

2 課題

・雨漏りが中体育館にて発生している。横殴りの強い雨の際にのみ発生し、業者へ依頼し調査を行ったが、特定の場所や原因を確認出来なかった。雨漏りは端のフロアに落ちるので利用者からのクレームは今までないが原因の特定を行う必要がある。(今年度も梅雨の際に業者に調査依頼しております)

3 その他

・提案書に記載していたペッパー君ロボが生産中止となったため代替りの代替え案を検討する

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年～6年（5年間）
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持監理業務においては、老朽化が進む中、職員による日常清掃、植栽管理、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。また専門スタッフが修繕計画を策定し、計画的かつ迅速な補修・修繕を行い、利用者に満足してもらえる施設整備を円滑に実施することができました。

多種多様な事業を実施するなど、利用者のニーズに即した講座、新規イベントや新規教室を開催することで、収益及び利用者満足度の向上に寄与している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

運營業務において、利用者について昨年度の約3倍まで上昇したが、新型コロナウイルス禍以前の水準（R1：約59万人）と比較すると、半分に満たなかった。LINE公式を開設するなど、積極的な情報発信を行っているが、引続き利用者増加に向けた取組を実施することに努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年～6年(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	・清掃:4月～3月(週2回) ・ゴミ収集:4月～9月(週2回) 10月～3月(週1回)	計画通り実施 ・清掃(芦屋市シルバー人材センター)・ゴミ(株式会社ウイルパワー) 利用者が増える中、清掃については業務委託では賄えない部分を職員が行い施設の美化に努めた	○	○
	設備保守管理	引き続き業務委託を実施	北播磨・臨海建設事務所と共同実施	○	○
	植栽管理	管理棟周辺及び施設内の植栽管理	芦屋市シルバー人材センターに剪定を依頼するとともに、職員により随時実施	○	○
	警備	職員による巡回及び夜間における機械警備	開館時間:職員による安全巡回 閉館時間:警備会社に業務委託	○	○
	小規模修繕	随時実施	救助艇修理、レンタル艇修理、散水栓等	○	○
	法定点検の実施	スロープに付着する藻による転倒防止のためのスロープ清掃を2週間に一度実施	干潮時に可能な限り実施し、藻などの付着を除去した。	○	○
運営業務	開館日・開館時間等	ニーズに合わせての臨時開館及び閉館時間の延長	シーズン中の土日祝日の開館時間の繰り上げ、自然学校等学校行事での臨時開館、国体予選等行事において早朝開館や閉館時間の延長を行った。	○	○
	公共性・公平性の確保	利用者への安全確保と適切な貸艇の整備	専門職員による貸艇の整備	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	子どもから大人までヨット・カヌーのそれぞれの技術目標に応じた講習会を実施	利用者のレベルに応じた講習を実施しており、今年度からステップアップコースなど、さらに2講座を増設し実施した。 アンケートなどから利用者のニーズを把握し、段階的に技術を習得したいという要望に応えた講座を設けたところ、大変好評であった。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	講座受講生にアンケート調査を実施	施設の老朽化やキャパシティの問題等を除き、内容については概ね「満足」の結果であった。	○	○
利用状況	利用者数	学校教育活動を中心とした団体利用を誘致し平日の利用促進を図る	自然学校での利用では緊急事態宣言の発令で受け入れを休止せざるを得なかったが、可能な限りニーズに合わせて対応した。 ヨット利用に関するニーズが低下傾向にあることと新型コロナウイルスの影響で全体の利用人数は昨年度を大きく下回ったが、秋シーズンに多数を受け入れ一定の成果を得ることができた。	○	○
	施設稼働率	学校利用を増やすことにより平日の稼働率を上げる	小学校 12 校、中学校 1 校、高等学校 3 校と学校の平日利用が新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令等で減少した。	○	○
収支状況	収支計画と実績	利用料金収入見込 17,136 千円 指定管理料収入見込 35,319 千円 自主事業収入見込 2,998 千円	利用料金収入 16,761 千円 指定管理料収入 34,988 千円 自主事業収入 3,747 千円	○	○
	経費節減に向けた取組	支出費用の削減	空調管理や光熱水費の節減に努めた。 植栽管理や廃棄物の処理等、可能な限り職員で行うとともに、利用者に光熱水費の節約を呼びかける等、経費節減に取り組んだ。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の要望をできる限り、対応することにより、苦情を未然に防止する。	利用者の立場に立った運営を行った結果、苦情があまり聞かれなかった。 職員の接遇マナーの向上及び仕事への前向きな取り組みが評価につながった。	○	○
	危機管理体制の確保	安全マニュアルの作成と救助訓練の実施	長年の経験からあらゆる事故を想定し、救助訓練はもちろん、日頃から危機管理における体制づくりを行った。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営 体制	県・関係機関との連携	自然学校・課外授業の受け入れ	阪神教育事務所や各学校との連絡を図り、自然学校・課外授業等をニーズに合わせ受け入れを行った。 休館日の臨時開館を行うなど、積極的に受け入れを行うことでリピーター利用が多く、好評を得た。	○	○
	業務の再委託の状況	各種資格及び経験を持った職員の配置	繁忙期は海洋スポーツ経験豊富なアルバイトを配置し、事故無く利用してもらえた。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>1 来年度の取組目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍からの回復に伴い、利用人数及び収入を向上させる。 ・今年度中止になった多くの講座やイベントを開催する。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタル等の単価が低いため、利用人数が多くても、収入増に結び付きにくい。 ・建物等の施設が老朽化しているため、外壁の塗装、屋根の防水等大規模修繕が必要である。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年～6年（5年間）
指定管理者	（公財）兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持管理業務においては、老朽化が進む中、職員による丁寧な日常清掃、設備保守管理、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。また、清掃業務や植栽管理については職員が実施することで、経費削減に努めることができた。

運営業務においては、新型コロナウイルスの影響により利用者数及び利用料金収入が減少した。その中で自然学校等学校行事での臨時開館や利用者アンケートからの要望に基づき新規講座の開催を行うことで利用者増及び利用者満足度の向上に努めることができた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

カヌースクール講座利用者アンケートで、もっと告知をして欲しいという意見があった。新型コロナウイルスの影響により利用者が減少している中で、施設の利用者を増加させるためにも、自主事業のPRや周辺地域への施設の周知を行い、利用者の増加に努めて頂きたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	建物内清掃・屋外ゴミ処理・河川敷漂着ゴミ処理・公苑全体環境美化	日常清掃業務業者委託年240日、それ以外は職員が清掃。川岸漂着一斉清掃。(年間多量の漂着ゴミは、随時職員で回収した)。ごみ収集・運搬・処理は業者委託週1回。産廃処理随時実施。	○	○
	設備保守管理	電気工作物保守、浄化槽維持、水質検査、冷凍機保守、空調保守、濾過機保守、救助艇・カッター保守、プール濾過器保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプ保守、定期清掃、消防用設備保守点検	電気工作物保守及び浄化槽維持管理は毎月、水質検査年1回、空調保守を空調設備総合点検として年4回、濾過機保守年2回、救助艇・カッター保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプエアコン保守、クレーン保守、定期清掃を年1回、消防用設備保守点検を年2回実施、フロン漏えい検査を実施した。冷凍機については全面取替改修工事を実施。	○	○
	植栽管理	除草・芝刈り、高木、低木剪定、除草、施肥、目土・植樹	4月～10月の期間業者委託した。センター広場の公苑内の芝刈り等芝生管理、夏期スロープ付着藻の除去作業、強風、降雪による樹木の枝折れの等撤去は職員で実施した。	○	○
	警備	業者委託により機械警備実施	計画どおり実施した。	○	○
	小規模修繕	利用者の安全に関わるものを最優先に実施 施設維持に関わるもの、毎年整備が必要なものを実施	プールサイド漏水・塗装修繕、第2艇庫排水工事、地下ピット水中ポンプ取替・火災警報器取替工事、倉庫シャッター電気工事、プールシャッター工事、スケートリンク手摺塗装工事、冷却水ポンプ部品交換・冷却塔修繕など。 老朽化した設備の中で、緊急性の高いもの・利用者の安全に関わる修繕を実施した。施	○	○

			設の維持に関する毎年必要な整備等を実施した。 また、利用者の快適性を向上させるため、撤退し古びていたレストランの空間を、眺望の良いフリースペースとして利用できるように改修を実施。		
	法定点検の実施	定期的な巡回点検の実施。 カヌー・カッター等備品の点検整備。救助艇の点検整備。	コロナ感染防止の観点から受付方法を1ヶ所にし、利用者の健康状態チェック体制を強化。 雷検知システムによるリアルタイムでの気象情報確認、インターネットによる天候状況の監視、レスキュー要員の適切な配置。カッター気密テスト、カヤックの更新、救助艇の点検整備を実施し利用者の安全に努めた。	○	○
運營業務	開館日・開館時間等	5月～10月無休、12月30日開苑	コロナ禍においても感染症防止に努めながら、営業することが出来た。 6月～10月無休、12月30日開苑。	○	○
	公共性・公平性の確保	自然学校利用におけるインターネット申し込みを活用した利用調整	自然学校は234校の申し込みがあり117校が実施した。 (悪天候中止8校・キャンセル109校) コロナ禍においても自然学校の利用が出来るように、最善の感染症対策を施していたが、年度前半を中心に緊急事態宣言や蔓延防止が続き、多くの学校がキャンセルと予約の繰り返しが発生した。昨年度同様、利用校数は例年の半分近くに減り、利用人数は約1/3に減った。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	美術館展覧会2事業、スポーツ事業15事業、各種大会1事業、その他の事業5事業計23事業	美術館展覧会1事業、高校美術連盟展等事業1事業、スポーツ事業8事業、各種大会1事業、その他の事業8事業計19事業	△	△
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者アンケート	随時実施 管理・運営に関するアンケート ①スタッフ:77%(大変満足・やや満足) ②施設・設備・展示・教室:87%(〃)	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	対昨年度より増加 プール 5,206 スケート 4,795 ボートヤード 11,762 センター広場 12,915 美術館 7,925 会議室 83 展示室 1,352 その他 1,457 計 45,495 人	プール 5,171 スケート 4,487 ボートヤード 17,337 センター広場 13,288 美術館 4,019 会議室 117 展示室 1,158 その他 712 計 46,289 人	△	△
	施設稼働率	対昨年度より増加 R2 年度稼働率 プール専用 1.9 スケート専用 21.3 展示室 23.8 会議室 0.3(単位%)	プール専用 3.5 スケート専用 13.7 展示室 50.0 会議室 0.4(単位%)	△	△
収支状況	収支計画と実績	指定管理料 101,141 利用料金収入 7,407 自主事業収入 2,467 その他手数料等 96,465 計 207,480 千円	指定管理料 101,141 利用料金収入 7,077 自主事業収入 2,611 その他手数料等 96,474 計 207,304 千円	○	○
	経費節減に向けた取組	電気料金の入札を実施し、新電力会社を選定する。	電気料金の入札を実施し、新電力会社を選定、契約した。また、スケートの冷凍設備を改修し、従来設備と比べると、若干ではあるが節電効果が見られた。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の声を聴き、施設運営に生かすため、チェックボックスによる、答えやすいアンケートの実施。	利用者・受講者アンケートやサポーターへのアンケート実施などにより苦情・要望等の把握に努めた。アンケートを随時回収し、その内容をその都度事業実施に生かした。特に、利用者の声について検討し改善した。	○	○
	危機管理体制の確保	救急救命等講習を実施。気象状況等の把握。消防訓練、避難誘導、消火訓練。ボートヤード救助訓練を実施。	救急救命講習会、消防訓練及びカヌー利用時レスキュー訓練を実施した。	○	○
	県・関係機関との連携	豊岡市消防本部への消防計画書提出・連絡。市町及び小中学校、観光協会、城崎温泉旅館組合への広報協力依頼。円山川水難救助訓練会場協力。	事業広報活動を計画通り実施した。兵庫県警(但馬県民局・豊岡市・但馬管内警察・海上保安庁)水難救助訓練の会場として、その開催・実施に協力した。	○	○
	業務の再委託の状況	運営委員会の設置	コロナ禍のため、運営委員会を開催する方式ではなく、各運営委員に実績報告資料をお送りし、意見を求める方式に変更した。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・利用者ニーズを捉えて、開催内容、回数を増やすと共に、ネット予約、ネット決済など利用者の利便性を図る取組みを今以上に進める。

・コロナ感染拡大防止対策はもとより、利用者が施設を利用される際の使用備品も含めた施設全体の安全性を高める為の取組みを更に進める。

2 課題

・令和3年度に実施された施設の大規模改修は、外壁等が中心であった。施設運営に影響を及ぼすリスクのある、プール濾過機、プール塗装工事やアイススケート営業時に稼働する冷却水ポンプのオーバーホールなど設備の改修が未着手となっている。これらの改修経費は、指定管理者の運営費で検討する金額(60万以下)を超えており、早急に設置者で改修検討していただかないと、営業停止のリスクが高いまま運営することになる。

3 その他

・コロナ禍の影響がある中でも、いかに安全に安心して利用して頂けるかを検討し、その体制のもと、営業を展開した。また、大規模改修の時期でもあったが、コロナ禍で事業を縮小していたことが幸いし順調に事業を進める事ができた。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年～7年（5年間）
指定管理者	兵庫県立スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数及び利用料金収入等は新型コロナウイルスの影響により減少した。また、自然学校利用についても、234校申し込みがあり、うち117校の実施にとどまった。

アンケートを随時実施し、その内容をその都度事業実施に活かした結果、アンケートでは8割程度が大変満足・やや満足となり、利用者のニーズに十分応えている。

電気料金の入札やスケートの冷凍設備を改修し、経費削減の取組をしている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

新型コロナウイルスの影響や計画修繕工事を行ったため、団体の利用中止や事業の中止があった。来年度以降は、課題を整理し事業内容や実施方法の工夫を検討し、更なる事業の拡大に努めてもらいたい。

設備点検は年数回実施をし、小規模修繕も適宜行うなど、安全性・利便性を高める取組をしているが、設備の故障により、営業停止期間が発生した。より安全安心に施設を利用していただけのように努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃作業を行う。	日常的に清掃を実施。	◎	◎
	設備保守管理	日常管理業務に加えて、法定点検、定期点検等を行い、性能を維持する。	県有建築物の定期点検の実施。	○	○
	植栽管理	芝、樹木の管理等。	芝刈り、除草、剪定を随時実施。 利用者から周りの環境がキレイになったという声が多い。	◎	◎
	警備	施設内の秩序を維持し、事故、盗難、破損等の犯罪及び火災等の災害の発生を警戒・防止し、財産の保全を図るとともに、利用者の安全を守るために、保安警備業務を適切に行う。	機械警備、巡回、出入管理、車両誘導、交通整理、防災監視盤による監視、緊急連絡及び処理、警戒機器の保守点検。	○	○
	小規模修繕	専有部分における建築物等について、不都合の無い状態を維持し、かつ美観を維持する。	日々の点検において、不都合が見られる箇所は即座に対応した。	○	○
	法定点検の実施	計画通り実施する	計画通り実施した。	○	○
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日は月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/29 から 1/3。 開館時間は 9 時から 17 時まで。	左記の開館時間に加え、休館日でも特に開館が必要と考えられる競技会等では、臨時開館に備えた。	○	○
	公共性・公平性の確保	原則として、専用利用は受付順での利用。 弓道教室修了者への弓具の貸出を実施。	原則として、専用利用は受付順での利用。 弓道教室修了者への弓具の貸出を実施。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	年間 3 回の講習会を実施。 1 講習 150 分とし、初心者教室 10 回(5 日間)、経験者教室 6 回(3 日間)講習開設する。	年間 3 回の講習会を実施予定であったが、コロナウイルスの影響により、開催を取りやめた。 募集当日に定員が埋まるほど、人気の講座ではあったが、コロナウイルスの感染状況を鑑みながら判断した。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者アンケート	アンケートの結果、利用者より高い評価も得ており、職員の接遇についても、親切に対応して貰えたとの意見もあった。	○	○
	利用者数	年間で約2万人の来館を目標とする。	専用利用:15,499人 (前年度9,830人) 共同利用:1,457人 (前年度1204人) 講座利用:0人 (前年度294人)※講座中止 その他:1,393人 (前年度1931人) 合計:18,349人 (前年度13,259人)	○	○
	施設稼働率	専用利用75%を目標とする。	専用利用:73.8%(前年度74.6%)	○	○
収支状況	収支計画と実績	収入:指定管理料 4,873,000円 利用料金等収入 1,772,000円 合計6,645,000円 支出:人件費5,121,000円 維持管理費3,258,000円 合計8,379,000円	収入:指定管理料 4,873,000円 利用料金等収入 1,717,600円 合計6,590,600円 支出:人件費4,932,194円 維持管理費3,450,724円 合計8,382,918円	○	○
	経費節減に向けた取組	事業収入の確保や、施設維持管理を適切に行い、コスト削減、環境負担低減に努める。	利用状況に応じたこまめな節電・節水や、利用者への掲示及び呼びかけの実施。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	事前打合せや、利用者からの聞き取りによる情報により、トラブルの防止と再発防止に努めた。	○	○
	危機管理体制の確保	災害発生時の対応、緊急連絡先の周知の徹底を図る。急病者への迅速な対応等。	台風等による施設の使用状況に対する利用者への対応。団体利用者への緊急連絡網の活用により適切に対応できた。	○	○
	県・関係機関との連携	兵庫県教育委員会事務局体育保健課との連携を図る。	毎月の利用料金並びに利用状況の報告に加え指定管理事業報告書の提出等、その他連絡事項を随時報告。	○	○
	業務の再委託の状況	弓道教室の受講者や弓道場の利用者を増やすため、行政機関、公共機関、近隣施設、新聞社等と連携し、効果的な広報活動を展開する。	明石市役所、県立武道館、神戸新聞社、神戸市西区役所等に弓道教室の広報紙を配布。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

- ・公共施設予約システムの運用開始し、ネット受付を導入することにより予約業務の効率化を進める。また、各種業務においてもデジタル化を進めていく。
- ・感染拡大防止対策を行いながらの運営ではあるが、安全安心な環境を保ちつつ、弓道教室等積極的にイベントを開催し弓道の普及振興を図る。
- ・弓道場の新館会議室等が設立されたことに伴い、新館の利用促進を図る積極的なアピールを行い稼働率を高める。

2 課題

・施設の老朽化について

遠的射場の防矢ネットはウインチとワイヤーロープで昇降活動を行っているが、これを支えている支柱の劣化は年々顕著になってきている。支柱はフラッグポールの使用やフェンスの支柱と共用のものもあり、強度に問題が生じている。また、防矢ネットは本来の防矢ネットでないものも使用されているので、安全管理面から新しい支柱設置の際に同時に交換を行う必要がある。これらは、60万円以上の修繕となるため、所管課へ要望を上げているが予算措置が無いまま現在まで経過している。劣化による事故が起こる可能性が高いため、早急に設置者にて修繕を行う必要がある。

・指定管理料の不足について

人件費や光熱水費が高騰する中、使用料の単価が低く、使用料収入が見込めない施設であるため、その乖離が年々激しくなっており、指定管理料のみで経費をまかなうことが難しくなっている。利用者へのサービスを向上させつつ、経費削減を行うことが求められているが、最低限の体制で運営をせざるを得ない状況である。

3 その他

・施設の不備について

遠的射場看的所の設置や新館の弓張板設置、国体入賞時の表彰状の掲示設備の設置が整備されておらず、弓道連盟からも強い要望を受けている。施設の設備に関する事なので、所轄課へ要望を上げている。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和3年～5年（3年間）
指定管理者	（公財）兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

運營業務においては、利用時間は利用者からのニーズに応じ延長を行い、また大会等では臨時開館を行った。利用者については目標をわずかに下回ったが、前年度に比べると、大きく上回っており引き続き、利用者増加の取組を行ってほしい。

施設維持管理業務においては、老朽化が進む中、職員による丁寧な日常清掃、警備に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。また、施設設備等の定期点検を実施することで、利用者の安全確保を図りつつ、円滑に実施することができた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

新型コロナウイルスの影響により、弓道教室の開催を行うことができなかった。今後は新型コロナウイルス禍での課題を整理した上で、対応策を検討し、利用者の拡大に努められたい。

今年度には別館が新設されており、新施設の利活用について、各弓道関係団体と連携し、利用者増に努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を常に清潔な状態を維持し、快適性を高めるため、日常清掃、定期清掃、臨時清掃を計画的に実施する。	清掃担当者を適正に配置し管理水準に沿った清掃を行った。また、建物全体の窓ガラスの清掃、施設内の床清掃を日常とは別に、臨時で実施した。ただし本年度も、大規模改修工事等により計画的に実施することが出来なかった。	○	○
	設備保守管理	電気設備、給水設備、排水設備、消防設備、浴室管理、テニスコート、体育館、管理棟などの点検並びに修繕の実施。	大規模改修工事完了後、本年度も建築物の定期点検を、社内資格者により自主点検を年1回行い細部の点検が実施できた。ただし、本年度も大規模改修工事等により、修繕計画が十分に行えなかった。	○	○
	植栽管理	施設内の草刈、高木、低木の剪定、雑木の伐採。	大規模改修工事による休館中も、施設職員により景観が保たれるよう、随時草刈りの実施、高木や低木の剪定を実施した。ただし、大規模改修工事を行ったため、細部に亘っての管理が出来なかった。	○	○
	警備	利用者の安全を第一とし、危険予知と早期発見に努め、施設内の巡回点検を行う。	休館中も施設の要所に設置した、4台のカメラにより24時間録画監視体制を敷いている。また、開館後職員による利用者への声掛けや巡回は継続して行った。工事中也、安全管理を期すため、施設内の巡回を頻繁に行うことにより、大きな事故等もなかった。	◎	◎

	小規模修繕	機能、性能の劣化により使用目的に耐えられない状態になる前に、早期に対応策の検討を行い、修繕計画を策定する。	通路橋床タイル補修工事 181,500 円 食堂用ガス給湯器取替工事 74,055 円 体育館排煙窓修繕工事 33,000 円 男女洗面所壁掛け扇風機取付電源工事 101,200 円 集会室 B 漏水修繕工事 170,500 円 厨房食洗器修繕工事 86,460 円	○	○
	法定点検の実施	懸案事項であった、施設表示看板類の立替え工事等の実施。	施設表示看板、案内看板等立替え工事 2,800,600 円 予てから、経年劣化により懸案事項であった施設表示看板類が、県予算により実施して頂き、綺麗になったことからお客様から大変好評を頂いた。	○	○
運営業務	開館日・開館時間等	年中無休開館:9 時～21 時 30 分 日帰り入浴:11 時 30 分～21 時 30 分	年中無休開館:9 時～21 時 30 分 日帰り入浴:11 時 30 分～21 時 30 分	○	○
	公共性・公平性の確保	全ての利用者に対して公平かつ適切なサービスを提供する。	人気月の予約受付については、抽選制を導入したことから、より公平に幅広い利用者に使って頂けるよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	幅広いプログラムメニューで施設の活性化を目指す。	本年度も、野外活動事業のみならず、多種多様な自主事業を計画しましたが、新型コロナウイルス感染者の増加及び、大規模改修工事等により休館を行ったため、各種事業を中止せざるを得なくなり、一部の自主事業しか実施出来なかった。 しかし屋外での事業は実施、屋内事業は他の施設を借用して一部は実施出来た。参加者は、この状況の中で実施して貰った事に、大変喜んで頂けた。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者・参加者のニーズの把握に努める。	自主事業のアンケート結果は総じて好評であった。宿泊者にあっては、新型コロナウイルスの影響や、大規模修繕工事等による休館により宿泊客は大幅に減少となり大変残念であった。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
利用状況	利用者数	対昨年度より増加 平成30年度実績 116,953人 令和元年度実績 117,710人 令和2年度実績 72,484人	令和3年度実績 39,414人 本年度も、大規模改修工事及び計画修繕工事による休館や、コロナウイルスの影響により、大幅な集客の減となった。 入浴客は、年々増加の傾向にありましたが、本年度も大規模改修工事等による休館や、コロナウイルスの影響により大幅に集客減となった。	△	△
	施設稼働率	対昨年度より増加 令和2年度実績 和室：9.3% ロτζ棟：4.5% 体育館：20.2% 集会室：2.7% テニスコート：30.7%	令和3年度実績 和室：19.5% ロτζ棟：8.9% 体育館：19.8% 集会室：3.7% テニスコート：15.1%	○	○
収支状況	収支計画と実績	令和2年度実績 利用料金収入：7,003,140円 その他収入：1,695,180円	令和3年度実績 利用料金収入：7,231,680円 その他収入：1,254,465円	△	△
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙や、老朽部分の修繕による、経費の節減対策。	閉館中も、草刈や樹木の剪定、また小修繕については積極的に職員で行った。 弊社のISO9001による環境マネジメントに則し、環境マネジメント教育、訓練を実施し、環境負荷逡減に取り組んでおり一部経費の節減に繋がった。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートに加え、ご意見箱を設置し利用者からの、不満点を把握する。	利用者からの要望をより細かく受け止められるように、ご意見箱の設置とアンケートを実施した。両方とも多数の意見をいただいております。ニーズ把握がしやすい。	◎	◎
	危機管理体制の確保	「利用者の安全を第一」に考え、安全・安心の対応に努め、「緊急事態は起こり得るもの」ととらえ、危機管理マニュアルを策定。	自然に恵まれた立地と野外活動施設という観点から、天候の動向にも気を配り、危険を察知した場合は利用者に注意喚起を行った。 異常発生時には危機管理マニュアルに基づいた行動が取れるよう職員に周知を図った。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営 体制	県・関係機関との連携	報告・連絡・相談を密にし連携体制を築き上げていく。	管轄の猪名川消防署、川西警察署、木津駐在所、猪名川町役場、猪名川町水道課や地元の方々との連絡を密にし、日々情報の収集を行った。	◎	◎
	業務の再委託の状況	当該施設の食事提供に、協力企業として野外活動施設で、アレルギー対応を良く分かっているTSKサービス(株)と提携し、ニーズに合った食事提供を行う。	開館後、コロナウイルスの影響により、宿泊客のキャンセルにより、十分な食事の提供が出来なかったため、お客様に喜んで頂けるよう、新たなメニューの提供を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・大規模改修工事・計画修繕工事による施設の休館やコロナウイルスの影響により、施設利用客や収入が大幅に減少している。来年度は、集客数を取り戻すため SNS や紙媒体での自主事業の PR や周辺地域・各種団体へ施設の啓発を行い利用者の獲得を図ると共に、当施設の認知度 UP 及び集客数の増を図る。

2 課題

・大規模改修・計画修繕工事を実施して頂いたが、要望箇所が一部出来なかったため、未改修部分は経年劣化によりかなり老朽化している。早急に修繕工事を行わないと施設利用者が転倒して怪我に繋がる箇所や、劣化が進めば修繕費用も多額になることから、修繕工事を実施する必要がある。

・今まで沢山の自然学校を受けて頂いていた、青垣町にある「丹波少年自然の家」(阪神 7 市 1 町及び丹波地域で構成されている一部事務組合)が解散されることになり、令和 5 年度の自然学校の申し込み校が当施設に多くあり、抽選を行うこととなってしまう、近隣校を落とすこととなってしまうことは大変残念である。なお、学校側は不満が残ってしまうこととなっている。

これから毎年このような事が起こると思うので、何か解決策を考える必要があると思われる。

また、自然学校を多く入れるとお風呂が貸切となり一般の入浴客が入れなくなることから、遠のかれる可能性がある。

3 その他

・施設内及び施設周辺に位置する、民有地の取得を願いたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年～7年（5年間）
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持管理業務においては、24時間録画監視体制を敷いており、開館時も職員による利用者への声掛けや巡回を行っており、利用者に安全安心に施設を利用していただけよう努めている。

利用者アンケート及びご意見箱の回答を施設内に掲示し、利用者の意見を踏まえた運営改善や利用者との相互理解を進めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

計画修繕工事や新型コロナウイルスの影響により、利用者は昨年度より33,070人減少しているが、利用料金収入は昨年度を上回っている。引き続き利用者を取り戻すために自主事業のPRなどにより、利用者の増加に努めて頂きたい。

また工事等の影響により管理水準書の通りに日常の清掃を計画的に行えなかった。日常点検についても一部の修繕工事は行えたが、適正な修繕工事が行えなかった。今年度以降は工事等の影響により清掃や修繕を行えなかった部分を含め、利用者が快適に利用できる施設づくりに期待する。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年～7年(5年間)
指定管理者	(株)ITC	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	テニスコート・駐車場・クラブハウス・通路の日常清掃を実施し、快適な利用環境の確保に努める。	クラブハウスについては、トイレ・更衣室・通路など毎日清掃を実施。駐車場のゴミ拾い・通路の清掃・落ち葉掃除など毎日実施。 また、感染予防策として、人が触れるカ所の抗菌コート・毎日の除菌作業を行った。	○	○
	設備保守管理	施設全域の日常点検と定期点検を適切に行い安全快適な利用環境の確保に努める。	・清掃時に全域の目視点検を毎日実施。 ・消防設備点検…年2回 ・高圧受電設備点検…毎月1回 業者による点検の実施と、スタッフによる日常点検により、破損個所の補修、ネット・防風ネットの補修など迅速に行うなど、利用者に快適な状態を提供できたと評価する。	○	○
	植栽管理	施設の美観と快適な環境を保つため、適切な植栽管理を行う。	芝刈り・除草・樹木の剪定・花壇の植花を専門のスタッフにより通年実施した。	○	○
	警備	防犯・防火・設備監視のために、施設の夜間・休館日の機械警備を行う。	・早朝・夜の園内巡回による監視活動の実施。 ・クラブハウスの、毎日 21:00～9:00 までと休館日の防犯・火災監視の機械警備を実施。	○	○
	小規模修繕	利用者の安全確保と快適な利用環境の維持を目的に不具合の生じた箇所を適宜修繕する。	・人工芝の部分補修を実施。 ・テニスコートネットと白帯の修理交換実施。 ・テニスコートパラソルの交換実施。 ・防風ネットの修繕・交換を実施。 日常の点検を強化し破損箇所や不具合の発見に努め、迅速に小規模修繕を行った。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
	法定点検の実施	計画通り実施する	計画通り実施した。	○	○
運営業務	開館日・開館時間等	開館時間は9:00～21:00。5月～10月は22:00まで延長と、土日祝日の7:00～の早期会館実施。休館日は毎月第1火曜日・1月1日から同月3日及び12月29日から31日まで。	・第1火曜日については、コート整備終了後に営業を行った。 ・コロナウイルスによる緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などの影響で20時までの時短営業の時期が4月から10月まで続いた。	○	○
	公共性・公平性の確保	「公の施設は県民の共有財産である」という認識とユニバーサル社会の実現という視野に立ち、平等・公平・公正な利用を促進する。	インターネット予約システムにより、コートの空き情報は常に公開され、土日祝日・平日ともに抽選予約により、より公平な利用管理を行った。 インターネットの使えない方には窓口対応をして、公平性を保った。また、スクール利用は最大2面に絞り、一般利用者の利用機会を減らさぬよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	自主事業として次の各事業を実施する。 収入見込(単位 千円) ・テニススクール… 26,070 ・商品販売… 2,860 ・自販機 … 770 ・その他 … 1,160 計 30,860	自主事業の収入は当初の計画の91%と、緊急事態宣言等によるテニススクールの休校が大きく影響した。 収入実績(単位 千円) ・テニススクール… 24,430 ・商品販売 … 2,423 ・自販機 … 613 ・その他 … 787 計 28,253 テニススクールに関しては、約7か月に及ぶ緊急事態宣言やまん延防止措置による夜間スクールの休校で受講料収入の減少が続いた、また、その後も生徒数が回復せず、厳しい1年となった。 商品・自販機・その他(イベント)なども時短営業の影響で減少した。	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートボックスの設置や、スタッフによる積極的なコミュニケーションを通じて、利用者の要望・意見に対して、注意を払う。	毎年アンケート調査を行いますが、本年度はコロナウイルス感染予防の観点から、アンケート用紙やペンの設置は危険と判断し、調査を中止した。 アンケートは実施できませんでしたが、直接スタッフへの苦情などはほとんどなく、様々なご意見には都度対応をした。ご満足いただけていると評価する。	○	○
	利用者数	体育・スポーツの振興を通じ、青少年をはじめ広く県民の心身の健全な発達に寄与するための拠点となる施設になるよう運営を行う。	本年度総利用者数は 60,527 人で、昨年実績 58,239 人に対して、103.9%と微増に転じました。コロナ前の元年度と比較すると、91%で依然少ない状況である。	○	○
利用状況	施設稼働率	施設の利用率向上のために広く県民に周知する。	令和3年度施設稼働率は、83.5%で前年の 81.5%から 2%増加しました。 このことはリピーターが増えていることととらえ評価する。	○	○
収支状況	収支計画と実績	収入 …45,987 千円 ・利用料収入 …15,127 千円 ・事業収入 …30,860 千円 支出 …45,987 千円 (県納付金 5,440 千円を含む)	収入…45,806 千円 ・利用料収入 …13,538 千円 ・事業収入 …28,253 千円 ・補填指定管理 4,015 千円 支出 …45,806 千円 (県納付金 4,615 千円含む)	○	○
	経費節減に向けた取組	節電や消耗品の管理を強化してコスト削減を図る。	光熱水費は計画に対し 52 千円の削減ができたが、消耗品はコロナ感染対策などで経費が増加した。経費全体では計画の 99%と、わずかに削減した。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情要望に対しては、迅速かつ誠意ある対応を行う。	利用者からの苦情要望については、窓口・電話・Eメールなどで随時受け付け、即時責任者へ報告し迅速に回答を適切に対応をした。	○	○
	危機管理体制の確保	緊急時の対応マニュアルについて全スタッフが熟知し行動出来るよう、研修を実施。	消防点検(年2回)・高圧受電設備点検(月1回)AEDパット・バッテリー交換など緊急時に備えた。また、全スタッフAED講習を受講するなど研修でも危機管理意識を高めた。	○	○

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営体制	県・関係機関との連携	管理運営に生じた重要な事項について、速やかに県教育委員会に報告し指示を受けるなど、連携を図る。	重要事項については必ず県教育委員会と連絡・報告をおこない指示を受けた。また、緊急時連絡体制表を作成し、スタッフに意識付けをした。	○	○
	業務の再委託の状況	統括責任者が施設管理業務の総合調整を行い、運営業務責任者が受付・清掃スタッフを、ヘッドコーチがスクールスタッフの管理を行う。	本部からの研修と、統括責任者の現場指導で、より効率の良い業務とサービスの充実を図った。 フロントはサービス向上のために接客・接遇の研修を行った。また、スクールのコーチも研修会を年4回行い、より指導力の向上に努めたことは評価する。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

・レンタルコートの利用はコロナ以前の状態に戻ってきたので、自主事業であるテニススクールの生徒数をコロナ以前の300人台にまで戻せるよう、募集活動の強化を図るとともに、在籍者へのサービス向上に努めたい。

2 課題

・レンタルコートの予約システムを多くの県民の方に、平等・公平・公正にご利用いただくために土・日・祝に続き平日もインターネット予約システムによる抽選予約に変更したが、いくつかのグループの多人数による抽選予約で、抽選結果が偏ってしまう事態が起きています。この事態を解消できるよう対策を考えていきたい。

3 その他

・現在行っている「コロナ対策」について、状況を見ながら少しずつ緩和していきたい。

令和3年度 総合評価シート

評価者：教育委員会事務局体育保健課

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年～7年（5年間）
指定管理者	(株) ITC	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。

運営体制としては、利用者からの要望を窓口・電話・Eメールで随時受け付け、迅速に対応している。また、定期的に施設の点検を行い、全スタッフに AED 講習等の研修を実施することで危機管理意識の向上に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

レンタルコートの利用者は新型コロナウイルス禍以前の状態に戻っており、施設稼働率についても平均して2%の上昇をしているが、テニススクールの生徒数に関しては以前の水準まで、生徒数が回復していない状況である。PR活動に努めるとともに、サービス向上にも努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である